

東京 PCB 処理事業所 夏季(2025/7/17～7/24)の周辺環境モニタリングでの
敷地境界における大気質ダイオキシン類の高値出現に関する原因と対応(最終報)

【概 要】

東京 PCB 処理事業部会

1. 前回の事業検討委員会での報告の概要

東京事業所の敷地境界における大気質 DXNs 濃度の 2025 年度の夏季測定(実施期間: 2025/7/17～7/24)の結果において、南東端で 0.98pg-TEQ/m^3 、北西端で 1.5pg-TEQ/m^3 と高値を計測した。

2024 年度秋季～2025 年度夏季の 4 季移動平均値(年平均値としての意味合いを持つ。)では、北西端で 0.69pg-TEQ/m^3 となり、4 季移動平均値として初めて参考指標の環境基準値 0.6pg-TEQ/m^3 (年平均値)を超過した。

このことは重大であり、JESCO としても対処・対応が必要な事案と判断し、これまでの経緯を含め、事実関係を踏まえて検討した結果、東京事業所の敷地境界での高濃度 DXNs の発生は、A 施設からの漏洩したガスあるいは微粒子によるものとするのが合理的と判断するに至った。

2025 年 11 月、こうした状況を A 施設の関係者に JESCO 本社及び東京事業所から 2 度に渡り説明し、今回の事象に対する対処を要請した。その結果、A 施設側からは、今回の事態を重く受け止めて早急な検討を実施する旨の確約を得た。

2. A 施設における原因究明とその対策の実施

その後 A 施設では直ちに主要設備の総点検を実施した。その中で流動砂の循環系統において新規の開孔を発見し、外部への漏洩があったことを確認した。

A 施設からは、原因究明の実施状況とその結果及び対策に加えて今後の対応に関して、2025 年 12 月 10 日に文書による回答があった。概要を以下に示す。

【原因究明】

流動砂の循環系統の集じんボックスに新規の開孔(約 $4,000\text{mm}$)を発見し、周辺の粉じんの堆積状況からこの部分から排ガスや微粒子等の外部漏洩があったことが判明した。加えて DXNs 組成も東京事業所の敷地境界でのそれと極めて類似したものと推定された。

【対策の実施】

上記の開孔等に関し、装置内部から鉄板の溶接を行い、外部漏洩等を防止した。

その他の漏洩等の可能性のある間隙に対して、パッキンの交換やコーキング及びテーピング等でその防止を図っている。

【今後の対応】

漏洩防止対策の維持・向上のため、日常点検によるチェックや漏洩の原因となる流動砂循環系統の正圧発生を回避するため運転操作の修正も検討する。

また、A 施設の今後の報告については、江東区及び東京都に説明するとともに、その後の関連調査等についても継続して報告し、情報共有を確保する。

さらに JESCO とはそれぞれ報告や計測結果を速やかに交換することなどに加え、関連する環境問題全般についても情報共有を図り、連携を強化する。

3. A施設からの報告を受けての東京事業所としての対応

A施設からの上記2.の報告を受け、東京事業所での対応は以下の通りである。

1) A施設との情報共有と連携

A施設は本件を重く受け止め、全面協力の姿勢で対応されており、今後も対策の実施状況や測定結果を情報共有するなど連携しながら対応していく。

2) A施設の敷地境界における大気質ダイオキシン類濃度測定

A施設は対策の効果の確認として2025/12/17～18にA施設の敷地境界での大気質DXNsの測定を実施し、その結果の報告を受けた。A施設の敷地境界の東側で0.076pg-TEQ/m³、西側で0.13pg-TEQ/m³、南側で0.072pg-TEQ/m³、北側で0.075pg-TEQ/m³であり、参考指標の大気環境基準の0.6 pg-TEQ/m³を下回っていた。約1ヵ月後の2026/1/19～26(主風向が北寄りでA施設の影響は少ない)に実施した東京事業所での敷地境界の測定結果は問題なかった。

当面の間、東京事業所の夏季調査(主風向が南寄り)に合わせて、A施設と同時測定の実施を申し合わせ(今夏は7/16～7/23 予定)、測定結果を情報共有していく。

3) 環境安全委員会及び自治体等への報告

環境安全委員会へは、本件について2回(2025年12月15日開催、2026年3月25日開催)に渡って状況を報告している。委員よりA施設への適切な対応を求める意見があり、委員でもある東京都より、立入り調査を行い、適切に対応していることを確認した旨が説明された。

本件については、今後も東京都及び江東区へ対応状況を報告するとともに、環境安全委員会においてご意見を頂き、ご指導を踏まえて対応するよう努める。

4. 東京 PCB 処理事業部会としての対応

東京 PCB 処理事業部会としては今後も、上記3.の東京事業所の対応を注視しながら、必要に応じて検討していく。